

## 6. 高齢化：前例のないチャレンジ

出生率の低下と寿命の伸びによっておこる高齢化が、これからの世界規模の課題。

家族計画の普及に伴い家族は小さくなり、医療技術の発達と良質な保健医療サービスにより寿命は伸びているため、世界中ほとんどどこでも高齢者の割合が高くなっている。

これは世界的な大きな成果であると同時に、高齢化が進むにつれ、それぞれの社会における、経済成長、保健医療、高齢者の安全に関する新たな課題となっている。

労働者人口の割合が子どもや高齢者の非扶養者より少ないため、社会・経済の構造を歪めている。出生率が人口置換水準を下回ると、退職者数が労働市場に参入する新人労働者数を上回ることに伴って、労働力不足が起こる。

しかしながら、健康な年長労働者は、潜在的な人材資源となる可能性を持っている。彼らが実戦力として働き続けることができれば、自らの家族、コミュニティ、国に大きく貢献することができる。つまり、仕事、家族そして社会制度について再考すべきときであろう。

人口の高齢化は、特にアジア、ヨーロッパそしてラテン・アメリカで顕著である。先進国では既に高齢者の割合が高いのに対し、開発途上国の高齢化は対処するのが追いつかないほど早いペースで進んでいる。

### —現状—

- 現在の平均寿命は過去最高の 69 歳（男性 67 歳、女性 71 歳）である。しかしながら地域格差は大きく、サハラ以南アフリカでは 54 歳（男性 53 歳、女性 55 歳）北ヨーロッパでは 80 歳（男性 77 歳、女性 82 歳）である。
- 世界における 60 歳以上の人口は確実に増加している。1980 年には 60 歳以上の人口は 3 億 8,400 万人であったが、今日ではこの数値のおよそ倍の 8 億 9,300 万人である。2050 年までには、24 億にまで達すると推計されている。
- 以前、80 歳以上の人は数少なかったが、今日では世界で最も急速に増えている世代である。彼らは、若い世代よりずっと高い割合の医療・社会保障サービスを受けている。

- 経済協力開発機構（OECD）の先進工業国では、高齢化が一番懸念されている問題である。24–49歳のうち3/4が就業しているが、50–64歳の就業率は60パーセント以下である。
- 定年退職、もしくはそれ以上に高齢の人々の5人に4人が、年金や政府のプログラムの対象外である。
- 61カ国の法律で、女性は男性より早く退職することが定められている。女性の方が平均寿命が長いにも関わらず、一般的には男性よりも5年早い。これらの国の例としてはアルジェリア、オーストリア、イタリア、パナマ、ロシア、スリランカそしてイギリスが挙げられる。

#### —最近の傾向—

- 先進国では、およそ4人に1人が60歳以上であるが、2050年までに3人に1人以上になる。後発開発途上国では20人に1人が現在60歳以上であり、2050年までには9人に1人になる。
- 2050年までに65歳以上の人口を支える労働人口は、世界中で今の半分になり、社会保障や定年後の年金給付に関する政府の負担が増えることになる。
- 1950年に、世界で65歳以上の高齢者1人を支えるのに12人の労働人口がいたが、現在では7人である。そして2050年までには、わずか3人になると推計されている。
- 世界の年齢中央値（上の世代と下の世代の人口が同じになる中央の年齢値）は2010年の29歳から2100年には42歳にまで上がる。しかしながら国家間の格差は非常に大きく、ニジェールの年齢中央値は世界で最も低い15.5歳で、日本は最も高い44.7歳である。
- 高齢者に働き続けることを推奨し、雇用主に高齢者の雇用を促進する政策としては、税制改正や年金制度の改正、訓練の奨励、無担保の小口融資、保健医療費の補助、そしてフレックス勤務体制などが挙げられる。